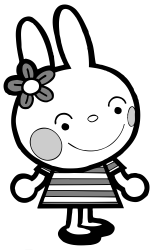
神明コミュニティだより

No.１１

Ｈ２０．３．６
鯖江市神明小学校

Community ： 深い結びつきをもった共同体。



今回は、「言葉」についてお伝えしたいと思います。

「はじめに言葉ありき。」ヨハネ福音書の冒頭にあるこのフレーズ。もともとは外国語なので訳し方はいろいろな説があり正確なところは分かりませんが、言葉のおかげで私たちの意識は「存在」し他者との関係も成り立つのだと思うと、なかなか奥の深い言葉です。特に、人間関係に不安を感じる子どもたちが増えている現代こそ、「言葉」を大切にしなければならないと感じています。

○　良い言葉・悪い言葉について考えよう。

児童会の企画で、素敵な取り組みが行われました。

＊縦割り班児童集会　１１月２９日（木）

班ごとに集まり、「悪い言葉とはどんな言葉か」「言われたときどんな気持ちがしたか」「良い言葉とはどんな言葉か」「どうしたら良い言葉を使うようになるか」について話し合いました。１年生は１年生なりに、６年生は６年生らしく、それぞれ思いを述べ合い、みんなが気持ちよく生活するためには相手のことを思いやって良い言葉を使うことが大切だという共通の意識を持つことが出来ました。

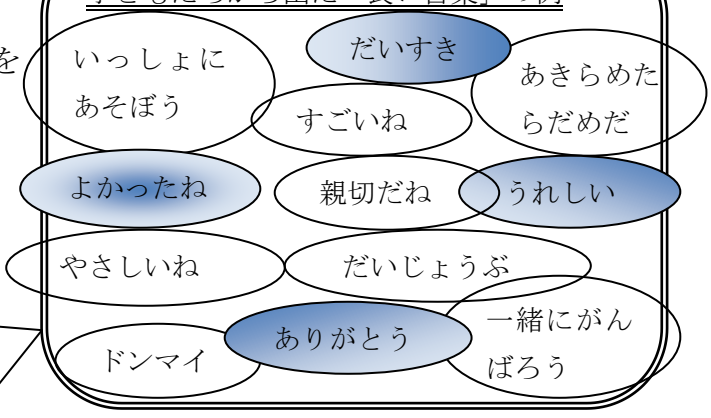
＝学校の言葉＝　「縦割り班」
昭和の頃町内には、異年齢の子どもの集団があり、さまざまなことを学ぶ場がありました。少子化が進むにつれ自然発生的な異年齢集団形成が期待できなくなったので、学校において１～６年生で構成されたグループ（縦割り班）を意図的に作ることが通例になってきました。

＊神明っ子集会　１２月１７日（月）

児童会のメンバーが、班ごとの話し合いをまとめたものを全校の前で発表しました。

気持ちがすさむと言葉は荒れてきます。反対に、乱暴な言葉を使っていると、態度も心も投げやりになってきます。言葉遣いについて意識できるように、今後も継続して指導していくつもりです。

子どもたちから出た「良い言葉」の例



詩の広場

児童玄関に「詩の広場」のコーナーがあることにお気づきの方も多いと思います。毎月新しい詩が紹介されています。子どもたちは、朝の時間などを使って暗唱に挑戦しています。児童集会で発表した学年もあります。記憶する能力の高い小学生の時期に、美しい日本語をたくさん覚えてくれることを願っています。

ゆき

川崎　洋

はつゆき　ふった
こなゆき　だった
くつの下で　きゅっきゅっとないた

どかゆき　ふった
のしのし　ふって
ずんずん　つもり
ねゆきに　なった

べたゆき　ふって
ぼたゆき　ふって
ざらめゆきに　なって
もうすぐ　春だ

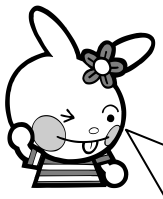
＜２年生の２月の詩＞

☆　学校で心がけていること

その他に学校で心がけていることを一つ紹介します。子どもたちに、単語でなく文章で話させるようにしています。例えば、「先生、ゴミ袋」発言。（低学年では「先生、おしっこ。」というのも多いのですが。）こういった場合は、「先生はゴミ袋ではありません。『玄関掃除ですが、ゴミ袋がなくなったので１枚ください』と言いましょう。」と指導します。

似たような場面がご家庭でもありませんか。「ズック・・・」と言われただけで「ああ、昨日洗ったからベランダじゃないの。」と返してしまうなど、子どもの気持ちがよく分かる親御さんほど、先回りして言葉かけをしてしまいがちです。しかし、お子さんのコミュニケーション力を育てようと思うならば、子どもが求めていることを敢えて分からないふりをすることも大事です。子どもが自分の考えや思いを言葉で表現する場を作っていただくとよいのではと思います。

恥ずかしながら、我が家での事例です。



晩酌する主人が、夕飯のテーブルでいつものように私に言いました。「おい、ビール。」
すると隣に座っていた４歳の息子が私にむかって言いました。「おい、牛乳。」
「・・・」